



尼崎市立小園小学校
平成28年3月25日
NO.14



平成27年度 学校評価 (本校の重点取組について)

- ・学習内容を充実させ、基礎基本の定着を図るとともに、学力の向上を推進する。
- ・心の教育の充実・自尊感情の高揚のための体験活動の充実を図るとともに、丁寧な児童理解に基づきひとりひとりの個性を伸ばす。

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる
<p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活がんばり表を実施し、児童と保護者の意識化を図るとともに、適切な生活リズムの確立を図る。 ・学校目標にせまるための学校プランの作成。 ・「朝の読書タイム」(月～金 8:30～8:40)の実施。 ・放課後スタディタイム(ST)の実施。(毎週木曜日)
<p>課題・改善策など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のはじめの「めあて」最後の「振り返り」が全学級で実施できているとは言えない。 ・家庭学習定着のための家庭への啓発や家庭学習・自主学習の方法の推進が今一歩であり、学校全体としての取組として学力向上の推進を行っていききたい。 ・聞く力や話す力は、普通の授業の中で育てていくもので、行事先行ではいけない。低学年から自由に話したり聞いたりする中でそういう活動が楽しいと思えるような授業が授業改善として必要だと思う。 ・学習道具の準備や音読のサインなど、家庭でももらえず、学校へ行きしづる子が見られる。支援の必要な児童に成功体験を積みせ自尊感情を高めていくことで自主的に行動できるように支援していききたい。

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る
<p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校放送や道徳の副読本を有効に活用し、道徳の時間を道徳教育の要の時間として充実させる。 ・道徳カリキュラムを編成し、カリキュラムにそった指導をする。 ・児童集会やカンガルー学級(低学年との交流)での活動を通して、互いに協力し教えあい、助け合うことでよりよい仲間意識や人間関係を育てる。 ・「学校だより」「学級通信」等を通して、児童の実態を保護者へ伝え、理解・協力を得る。 ・職員の人権意識を高めるための研修を行う。
<p>課題・改善策など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を確立するためには家庭との連携は不可欠である。学校だけでは基本的な生活習慣はなかなか身につかない。根気強く指導していかなければいけないと感じている。 ・キャリアプランニング能力の育成、多様な体験活動の実施が項目としてあげられている。体験活動、児童会活動、校外行事等の「体験」について、学年として育てたい力や系統性についても整理できれば、取組がわかりやすくなるのではないかと。 ・遅刻する児童や不登校児童の増加と家庭の生活習慣に強い関連性を感じている。

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む
<p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランチルーム使用時に、食育指導を行う。給食を通して、食事のマナーや食生活の習慣をつける。 ・給食室での挨拶を通して、食べ物や調理してくれた人への感謝の心を育てる。 ・食物アレルギーへの理解を高め、配慮を徹底する。 ・体育大会、マラソン大会、縄跳び大会等の体育的行事を充実し、たくましい心と体を養う。
<p>課題・改善策など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科と食育の関連と食育の充実のため、栄養教諭が入った授業を仕組む、教科の中で食育が生きるように教科にあわせて助言を行い、高めていければと思う。 ・体育のカリキュラムに授業時数を明示し、各単元でオリエンテーションを行う等により児童と指導者が単元に見通しをもった学習が行えるようにしていければと思う。 ・体育の技能を高めるためには、低学年から発達段階に応じて取り組めるようにしたい。

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る
<p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期1回の登校指導の実施 ・毎月の安全点検 ・各学期1回の避難訓練 ・不審者対応訓練 ・消防クラブへの参加(4年生)
<p>課題・改善策など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登下校の道の歩き方については、指導を徹底する必要がある。 ・カリキュラムの充実、「明日に生きる」の活用、地域と連携した防災訓練、災害対応マニュアルの見直し等、安全部中心に改善できればと考えている。 ・来校者への対応を含めて、日常的な危機管理意識を持ち、全員で取り組む必要がある。

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む
<p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を通して、指導力の向上を図り、自己を磨くようにする。 ・どんなことでも話し合える環境をつくり、和やかさと厳しさを持った職員集団をつくる。 ・学校評価から見えてきた課題について、各部会を中心に対策を練る。 ・オープンスクール等で保護者や地域の人に学校を公開していく。
<p>課題・改善策など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の指導力向上のための研修をさらに充実する必要がある。 ・積極的に授業交流ができるようにしたい。共通理解を図り、学年や学校全体で取り組んでいけるように努力していきたい。 ・地域の人材を活かした取り組みができればよい。

教育目標
<p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の学習意欲を高め、学力の向上をめざすため、日々の授業内容・指導方法の工夫改善を図る。 ・児童の内面理解に努めるとともに、良好な人間関係づくりに取り組む。 ・児童の健康増進と体力向上を図る。 ・学校目標をもとに学年目標や学級目標を定め、PDCAサイクルによる教育活動を推進する。 ・3つの「あ」(あいさつ・あつまり・あとしまつ)の指導を継続する。
<p>課題・改善策など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組を仕掛けではいるが、教員主導ではなく、児童の自発的な取組としたい。 ・児童の実態に即した取組について精査し、重点化して展開する必要がある。 ・各担当からの取組が多く、学校として重点的に、何を、どう力を入れて取り組み、どんな力を子どもにつけたいと考えるのかを明確にする必要がある。

研究テーマ
<p>主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマの具現化に向けて、各学年で達成すべき児童像を話し合い、明確にする。 ・授業改善に関わる校内全体計画を実施する。 ・全体公開授業、隣接公開授業の実施 ・事後研究会の活性化を図る工夫をする。 ・全職員が公開授業を実施し、授業力の向上を図る。 ・実態調査を行い、児童の実態を把握する。
<p>課題・改善策など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと研究テーマについての共通理解を図り、子どもに何を考えさせるのかを意識した授業改善をめざしていきたい。 ・特別支援学級の児童としては、課題に対して頑張って取り組む姿勢が見られたが、筋道を立てて考えることは発達段階から考えても難しい。 ・研究授業等では充実した研究ができていると思うが、普通の授業に生かし切れていないのではないかと。 ・語彙力・文章力が影響する。やる気はあってもそれを表現する方法を身につける必要がある。

学校関係者評価
<p>教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の経験の大きさが教育・学習内容の充実等に影響を与える。そのため、ベテランと若手のつながりをより強化する手立てをとることが必要となる。 ・若手教員の育成。 ・教員の心のゆとりと時間的ゆとりを作り出すためにさらなる手立てを求めたい。
<p>心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育のさらなる充実を求める。 ・教育活動全体を通して、自尊感情を育てていく実践を続けていってほしい。 ・子どもに成功体験を積みせ、自信を育てていってほしい。
<p>食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の年間カリキュラムの中で計画的に成果を表現するための行事という考え方で、行事の見直しをしてみてもどうか。
<p>安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かいところ(門のグレーチング、マンホール)での環境整備や安全を見据えた行事の運営など、学校の安全意識を感じることができる。
<p>家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親が我が子の情報をしっかりとつかみ、担任との連携を強めるための関係づくりの強化。 ・子どもと向き合う時間の確保をさらに行い、児童理解、何気ないことでも気軽に話せる雑談の確保が、子どもとの信頼関係を強めるとともに、保護者の知らない子どもの良さや悩みを知ることで、保護者との関係も良くなると思われる。 ・地域の連携は他地区と比べても深いと思う。
<p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度、教育目標の変更を考えていると説明があったが、シンプルな文言が良いと思う。
<p>研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態から指導すべき内容を整理、焦点をあてて高めていこうとする取組は評価できる。 ・集団づくりの基礎があつてこそ、研究効果は高まると考える。